

伝ハイドン (作曲者不詳) / 野外音楽第1番 変口長調 HobII:46



ふだんは管楽5重奏編曲版で演奏される「ハイドンのディベルティメント」を、今日はオリジナルに近いオーボエ2, ファゴット3, ホルン2, コントラファゴットによる管楽合奏でお聞きます。

短くも印象的なイントロを持つ**第1楽章**は軽快なテンポです。

第2楽章が「聖アントニウスのコラル」です。聖アントニウスはA.D.251年にエジプトに生まれたキリスト教の聖人です。20歳の時に新約聖書のキリストの言葉に感銘を受け、全財産を貧しい人に与え、自分の妹ですら修道女に託し、苦行に踏み出します。悪魔は彼が妹を放棄したことを責め、加えて金銭欲、名誉欲、食欲、色欲の誘惑でそそのかし、最後は暴力で従わせようとします。彼はそれに耐え、さらに20年間の山籠り苦行を乗り越えます。その場所には彼をしたって多くの修道院が立ち並び「修道士の父」と呼ばれました。「聖アントニウスの誘惑」は多くの芸術作品の題材になっており、絵画ではミケランジェロ、セザンヌ、ダリなどが題材にしています。

第3楽章はトリオを挟んだメヌエット、早いテンポの**第4楽章**には「聖アントニウスのコラル」が見え隠れします。

この曲はホーボーケンによるハイドン作品目録では偽作とされ、このコラル自体の作曲者も不詳です。私はずっとハイドンの作だと思っていて、今回チラシを作るにあたりそれを知り、「今さらそんなこと言われても」と少々ショックでした。

ブラームス/ハイドンの主題による変奏曲 作品56a



ブラームスが前曲「ハイドンのディベルティメント」の楽譜を友人から見せられたことがきっかけで書かれた曲です。作品番号の56aという表記は、ブラームスは初めにピアノ連弾で作曲し(56b)、それをオーケストラに編曲したものだからです。ピアノ連弾版はあたかもこの変奏曲の設計図を見ているかのようです。

《**主題**》前曲第2楽章との響の違いをお聞きます。《**第1変奏**》弦楽器の背景に管楽器群のリズムが印象的です。《**第2変奏**》ハンガリー風の木管の付点リズムが特徴的です。《**第3変奏**》木管楽器群が綺麗に歌いあげます。《**第4変奏**》オーボエとホルンがあたかも1本の楽器で演奏されているように奏でます。二声対位法で作られています。《**第5変奏**》交響曲のスケルツォのようです。《**第6変奏**》ホルンとファゴットで始まるブラームスらしい「益荒男振り」の曲です。《**第7変奏**》この曲を聴くとフルートはお姫様だなんて感じます。《**第8変奏**》ブラームスの不思議ちゃん。《**終曲**》交響曲を締め

括るような短くも壮大なパッサカリアです。コラルの5小節単位が19回繰り返され、コラル主題で締めくくられます。

変奏曲とは、モーツァルトの有名なきらきら星変奏曲のように、あるメロディのバスを変更せずに、リズム、拍子、和声をさまざまに変化させる、作曲家やプレーヤーの腕を見せる曲ですが、この「ハイドンの主題～」はそれらを超越したブラームスの晩年の交響曲へのアプローチが感じられる作品です。

ブラームス/交響曲第3番 へ長調 作品90

「クラシック音楽が趣味です」と言うと、わりとしばしば「好きな作曲家は誰ですか？」と聞かれます。私は「ブラームスです」と答え、「ブラームスはお好きですか？」と問い返します。本当はモーツァルトやチャイコフスキーなどのメロディーメーカーが好きなのですが、その方がなんかカッコ良いかなって思っています。

『ブラームスはお好き』



フランソワーズ・サガンの小説の題名で、25歳の青年シモンがバツイチのキャリアウーマン39歳のポールをコンサートに誘う手紙の中のさりげない一節です。この選択は絶妙ですよ。バッハでもモーツァルトでもベートーヴェンでもダメ。ブラームスというところにコンサートデートでのシモンの狙いが伺われます。出版の翌々年に『さよならをもう1度』のタイトルで映画化され、第3楽章のメロディがいたるところでさまざまに使われています。クラシックファンには賛否がありそうですが、私はどれも好きです。

この交響曲第3番は、ブラームスが第2交響曲を完成した6年後50歳の時の作で、ワーグナーの亡くなった年でもあります。F→Fdim7→Fのコードで始まる**第1楽章**は6/8拍子ではなく6/4拍子です。情



熱を感じてください。クラリネットとファゴットの素朴なメロディで始まる**第2楽章**は祈りと陶醉に浸ることができます。お待ちかね**第3楽章**は名にし負う市響チェロパートのホルンパートの実力をご堪能ください。**第4楽章**はなかなか晴れることのない景色です。

今回のプログラムを伺った時「なんで3番？」という疑問がまず浮かびました。プログラムノートを書かせていただくに当たり、何十回も音源を演奏順に聞く中で、特に交響曲第3番の中にある「祈り（コラール）」が深く心に残るようになり、前半の曲とつながるように感じるようになりました。私の勘違いかもしれませんが、今のこの時期に今日の演奏曲目はとても必要な曲なのではないかと思うようになりました。皆さんもよかったら曲中の「祈り（コラール）」を探してみてください。